

# 言文だより

2005年  
**No.6**  
7月発行

九州大学大学院言語文化研究院

言語文化研究院広報委員会 genbun@flc.kyushu-u.ac.jp

## 日米交歓ディベート開催

さる6月13日(月)九州大学六本松キャンパスにおいて、日本ディベート協会、同九州支部、言語文化研究院の共催により、「日米交歓ディベート (Japan-US Exchange Debate)」が開催されました。アメリカ側からは全米コミュニケーション学会等から選考された大学院生2名(ワシントン大学リア・スブレインさん、ピッツバーグ大学カーリー・ウッズさん)、一方日本側からは福岡教育大学と九州大学のチームが参加し、ディベート2試合が行われたほか、アメリカチーム・コーチのケビン・バースキー氏(州立カリフォルニア大学ロサンゼルス校コミュニケーション学部長)による講演がありました。ディベート試合の論題と講演の題目は以下の通りです。

### ディベート第1試合

アメリカチーム、日本チーム(福岡教育大学ESS)

「外国人労働者を受け入れるべきか」

“Resolved: That the Japanese government should allow the employment of migrant workers from overseas in all or most workplaces by amending the immigration laws.”

### ディベート第2試合

アメリカチーム 対 九州大学ESS

「インターネットは人を本当に幸せにするのか」

“Resolved: That Internet makes people really happy.”

講演「市民社会における議論とディベート」  
 (“Argumentation and Debate in a Civil  
 Civic Society”)

Dr. Kevin T. Baaske, California State  
 University



日米交歓ディベート風景

当日は、本学の学生・教職員だけではなく、他大学の学生、教員、また一般参加者など40名ほどの聴衆があり、その後の懇親会でも活発な意見交換が行われました。このような交流イベントは、学生の英語力や論理的思考力を試す機会を提供すると同時に、学生の視野を広げるという意味でも有益な試みである、ということが再認識されました。



日米交歓ディベート風景

## 平成17年度 科学研究費補助金交付状況

研究代表者分のみ

新 規	基盤研究C	
	福元 圭太	生物学的世界観とドイツ文芸クライス ヘッケル「一元論」の射程
	田中 俊也	「語等置の方法」を用いたゲルマン語動詞体系生成に関する比較言語学研究
	恒川 元行	身体部位語の連語関係記述を基にした「学習」和独辞典のための基礎的研究
	大津 隆広	日英語の談話連結詞における手続き的意味と語用論的推論の研究
	鈴木 右文	即時的文字チャットで英語学習者が産出する英文の特徴と改善点に関する研究
	徳見 道夫	「多読の良さ」の再考と Slash Reading 学習システムの構築
	阿部 吉雄	第2次世界大戦時、中国上海に存在したユダヤ人難民社会の実態研究
	萌芽研究	
(9 件)	稲葉美由紀	社会開発の新たな枠組みの模索：社会福祉とソーシャルワーク実践の視点から
	研究成果公開促進費	
	福元 圭太	「青年の国」ドイツとトーマス・マン

継	基盤研究C	
	小谷 耕二	自伝のエクリチュールと黒人の自己形成に関する文化史的研究
	太田 一昭	近代初期英国劇団地方巡業史研究
	山村ひろみ	日・英・仏・西語の対照研究 時制・アスペクトを中心にして
	田島 松二	18世紀英語の歴史・社会言語学的研究
	鈴木 敦典	コンピュータ・ネットワーク用語のドイツ語化過程に関する総合的調査研究
続	若手研究B	
	佐藤 正則	20世紀初頭ロシア文化・思想における「近代の超克」と新しい世界観の模索
(7 件)	特定領域研究	
	ヴォルフガング・ミヒエル	江戸明治初期の輸入医薬品・医療機器の実態調査と現存資料の総目録の作成について

## 公開講座「未来を育てる国際協力」

9月24日から11月12日までの毎週土曜日、「未来を育てる国際協力」と題する公開講座が、六本松キャンパスで開講されます。この講座では、教育・保健医療・雇用・弱者の社会福祉・多様な文化の維持・新しい価値観を持つ市民社会の創造などの観点から国際社会開発学について考えます。

講義日程	講 師	テ ー マ
9月24日	大谷 順子 (言語文化研究院助教授)	国際保険・人口学と社会開発 世界銀行と世界保健機関(WHO)勤務の経験から
10月1日	佐藤 正則 (言語文化研究院助教授)	地域文化をどうとらえるか
10月8日	小松 太郎 (言語文化研究院助教授)	発展途上国における教育開発と国際教育協力の傾向 および将来の展望
10月15日	柄谷利恵子 (比較社会文化研究院助教授)	『難民』を通して国際政治を考える 国際的な難民保護制度の形成と発展
10月22日	李 一清 (言語文化研究院助教授)	Development of Social Dialogue in Transitional Economy: The Case of Mongolia
10月29日	稲葉美由紀 (言語文化研究院助教授)	社会福祉と国際協力の接点 現状と今後の課題
11月5日	岡野 進 (言語文化研究院教授)	ITと社会開発
11月12日	山下 邦明 (言語文化研究院教授)	国際協力とCSOの役割 地域社会意識をどう育てるか

# Information

## 大学院言語文化研究院箱崎分室における全学向け外国語クラス

### 平成17年度 前期時間割

白色の欄は言語文化科目Ⅱ、灰色の欄は外国語コミュニケーション科目

詳細は、<http://www.rc.kyushu-u.ac.jp/~ilcbr/>

時限	月	火	水	木	金
1 8:40 ～ 10:10	英語ディベートⅠ (アンスコム・飯野)	時事英語講読 (稲葉)	英語スピーチⅠ (小松)	英語翻訳法 (山下)	英語会話Ⅰ (スモール)
			英語会話Ⅱ (クイン)	英語リスニング・セミナーⅠ (アンスコム・飯野)	
2 10:30 ～ 12:00	英語リスニングⅡ (アンスコム・飯野)	英語会話Ⅱ (稲葉)	ドイツ語コミュニケーション基礎 (田中俊明)	英語エッセイ・ライティングⅠ (山下)	人文科学英語講読 (スモール)
		入門フランス語 (阿尾)	実用英語演習Ⅰ (小松)	英語リスニングⅠ (アンスコム・飯野)	速修朝鮮語 (松原)
3 13:00 ～ 14:30	速修ロシア語Ⅰ (佐藤)			速修インドネシア語Ⅰ (遠藤)	フランス語読解コース (羽賀)
4 14:50 ～ 16:20	速修イタリア語Ⅰ (スリス)	ドイツ語発音セミナー (田中俊明)	エスペラントⅠ (田畑)		
			速修中国語Ⅰ (潘)		
5 16:40 ～ 18:10	ドイツ語読解セミナーⅠ (田畑)	実用英語演習Ⅱ (ポーブリッツ)	英語会話Ⅱ (スモール)	英語文学講読 (ファーネル)	英語リーディング・セミナーⅠ (ポーブリッツ)
	時事英語講読 (ドヨン)				フランス語実用会話 (ホスーシュ)
	スペイン語圏の言語と文化 (山村)				
6 18:30 ～ 20:00	英語会話Ⅰ (ドヨン)	英語ライティング・セミナーⅠ (ポーブリッツ)	自然科学英語講読 (スモール)	英語エッセイ・ライティングⅡ (ファーネル)	英語会話Ⅱ (ウエストリック)
				時事スペイン語 (青木)	

## Report

### 講演会報告

#### English for Specific Purposes: Concepts for EFL Environments

平成17年1月13日(木)に、武庫川女子大学の野口ジュディー教授を迎え、English for Specific Purposes: Concepts for EFL Environments (特定の目的のための英語：外国語としての英語に関するコンセプト) という題目で、講演会が開催されました。

この講演会は、理工系の学生にいかに関英語を教えるかを考える上で重要なESP (特定目的のための英語) を扱ったもので、言語文化研究院の教員の他に、高等教育総合開発研究センター、工学研究院、情報基盤センター等複数部局からも参加者があり、大変有意義な講演会となりました。

講演は、ESPに関する研究や教育実践の歴史、授業の紹介からなり、そこでは、言語がコミュニケーションのためにあるということ、ESPの母語話者はいないということ (ある分野のESPが得意な非母語話者は一般の母語話者よりその分野では優れている) などが強調されました。